

2025年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）



2025年7月15日

上場会社名 株式会社サイエンスアーツ 上場取引所 東
コード番号 4412 URL https://science-arts.com
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 平岡 秀一
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 松田 拓也（TEL）03(6825)0619
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年8月期第3四半期の業績（2024年9月1日～2025年5月31日）

（1）経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第3四半期	1,160	32.0	57	—	41	—	34	—
2024年8月期第3四半期	878	59.0	△35	—	△37	—	△36	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年8月期第3四半期	4.40		—					
2024年8月期第3四半期	△5.57		—					

（注）1. 2024年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2. 2025年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期第3四半期	1,975	1,315	66.6
2024年8月期	953	476	50.0

（参考）自己資本 2025年8月期第3四半期 1,315百万円 2024年8月期 476百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年8月期	—	0.00	—		
2025年8月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年8月期の業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,566	32.2	44	—	28	—	20	—	2.56

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年8月期3Q	8,219,500株	2024年8月期	6,716,400株
② 期末自己株式数	2025年8月期3Q	123,088株	2024年8月期	132,800株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年8月期3Q	7,748,176株	2024年8月期3Q	6,583,600株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(収益認識関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢・所得環境が改善するなか、各種政策の効果もあり緩やかな回復が見られましたが、為替相場の円安等による物価上昇、米国の通商政策の動向、不安定な国際情勢等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社が事業展開する国内のソフトウェア市場におきましては、働き方改革や人手不足の解消などの課題解決に向けコミュニケーションの促進や業務の自動化・効率化につながるソフトウェアの導入や生成AIの活用による機能強化や高付加価値化が進み、2024年度は2兆8,072億円※1が見込まれております。また、フロントラインワーカーが働く最前線の現場においては、法人向けモバイル通信端末市場の拡大、AIや画像認識等の精度向上、ウェアラブルカメラ等ハードウェアの開発と導入コストの低減、5Gの普及による映像等大容量データの活用など、様々な分野のイノベーションの発展に伴い、さらなるDX化の拡大が期待されます。当社の提供するサービス「Buddycom」の国内における潜在市場規模については、約1,900億円と推計※2しております。当社は「フロントラインワーカーに未来のDXを提供し、明るく笑顔で働ける社会の力となる」ことをミッションに掲げ、「フロントラインワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム」の新たな市場の創出を図りながら、開発・販売を行ってまいります。

このような経営環境のもと、当社の主力サービスであるBuddycomの開発及び販売に注力いたしました。売上高は順調に推移した一方、Buddycomの開発及び販売強化のための人員増加による採用費及び人件費の増加等により、販売費及び一般管理費も増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,160,117千円（前年同期比32.0%増）、営業利益は57,269千円（前年同期営業損失35,583千円）、経常利益は41,728千円（前年同期経常損失37,874千円）、四半期純利益は34,055千円（前年同期四半期純損失36,662千円）となりました。

※1 株式会社富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2024年版」（2024年8月）

※2 国内における全ての潜在顧客、フロントラインワーカーに導入された場合の、顧客による年間支出総金額。
（日本のフロントラインワーカー人口（2024年4月の総務省統計局「2023年度 労働力調査年報」より当社推計）×ID当たりの平均年間課金額）

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

（Buddycom事業）

Buddycom事業におきましては、マーケティング強化による知名度の向上、営業人員の増強、代理店営業力の強化、SMB※1向けの販売強化等により契約社数は増加し、当第3四半期会計期間末の契約社数は1,462社（前事業年度末1,077社）となり、ARR※2は974,731千円（前事業年度末739,058千円）となりました。以上の結果、当第3四半期累計期間における、Buddycom利用料売上が647,255千円（前年同期比36.2%増）、アクセサリ売上が511,387千円（前年同期比28.0%増）となり、セグメント売上高は1,158,642千円（前年同期比32.4%増）、セグメント利益は56,022千円（前年同期セグメント損失38,979千円）となりました。

※1 SMB：Small and Medium-sized Businessの略称。当社では従業員数が500人未満の企業と定義。

※2 ARR：Annual Recurring Revenueの略称。各期末月のBuddycom利用料売上に12倍して算出。

（その他）

ALTIBASE事業を「その他」に含めております。ALTIBASE事業については、積極的には展開しない方針であり、当第3四半期累計期間におけるその他の売上高は1,475千円（前年同期比63.9%減）となり、セグメント利益は1,247千円（前年同期比63.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ1,022,492千円増加し、1,975,951千円となりました。

これは主に、現金及び預金の増加（前事業年度末比954,802千円増）、売掛金の増加（前事業年度末比43,080千円増）、前払費用の増加（前事業年度末比24,391千円増）等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ183,203千円増加し、660,095千円となりました。

これは主に、未払金の減少（前事業年度末比11,573千円減）、長期借入金の減少（前事業年度末比9,747千円減）、一年以内返済予定長期借入金の減少（前事業年度末比6,597千円減）等はありませんでしたが、売上高が順調に推移したことによる前受収益の増加（前事業年度末比136,179千円増）、長期前受収益の増加（前事業年度末比23,738千円増）、未払法人税等の増加（前事業年度末比21,729千円増）等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産につきましては、前事業年度末に比べ839,289千円増加し、1,315,855千円となりました。

これは主に、新株式の発行による資本金の増加（前事業年度末比398,772千円増）、資本準備金の増加（前事業年度末比398,772千円増）等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年8月期の通期業績予想につきましては、2025年4月14日の「2025年8月期 第2四半期（中間期）決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	562,344	1,517,147
売掛金	101,368	144,448
商品	65,492	53,786
貯蔵品	7	10
その他	23,277	47,711
流動資産合計	752,490	1,763,103
固定資産		
有形固定資産	108,718	113,094
投資その他の資産	92,249	99,752
固定資産合計	200,968	212,847
資産合計	953,458	1,975,951
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,302	18,592
1年内返済予定の長期借入金	48,933	42,336
未払法人税等	530	22,259
前受収益	222,903	359,083
その他	94,122	103,547
流動負債合計	373,791	545,818
固定負債		
資産除去債務	45,749	45,974
長期借入金	40,091	30,344
その他	17,261	37,958
固定負債合計	103,101	114,277
負債合計	476,892	660,095
純資産の部		
株主資本		
資本金	52,121	450,894
資本剰余金	781,951	1,188,141
利益剰余金	△353,756	△319,701
自己株式	△3,750	△3,479
株主資本合計	476,565	1,315,855
純資産合計	476,565	1,315,855
負債純資産合計	953,458	1,975,951

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
売上高	878,886	1,160,117
売上原価	392,524	443,402
売上総利益	486,361	716,715
販売費及び一般管理費	521,945	659,445
営業利益又は営業損失(△)	△35,583	57,269
営業外収益		
受取利息	6	549
補助金収入	40	—
その他	6	106
営業外収益合計	52	656
営業外費用		
支払利息	1,209	1,284
為替差損	1,133	820
株式交付費	—	14,011
その他	—	80
営業外費用合計	2,342	16,196
経常利益又は経常損失(△)	△37,874	41,728
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△37,874	41,728
法人税、住民税及び事業税	217	10,713
法人税等調整額	△1,429	△3,040
法人税等合計	△1,211	7,673
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△36,662	34,055

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

当社は、2024年10月31日付で、楽天グループ株式会社及び株式会社JVCケンウッドから第三者割当増資の払い込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ390,610千円増加しております。

また、2024年12月16日開催の取締役会決議に基づき、当社取締役に対する譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行を行い、資本金及び資本準備金がそれぞれ8,162千円増加しております。

以上の結果等により、当第3四半期会計期間末において資本金が450,894千円、資本剰余金が1,188,141千円となりました。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	Buddycom 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	874,796	874,796	4,089	878,886	—	878,886
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	874,796	874,796	4,089	878,886	—	878,886
セグメント利益又は損失(△)	△38,979	△38,979	3,395	△35,583	—	△35,583

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	Buddycom 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,158,642	1,158,642	1,475	1,160,117	—	1,160,117
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,158,642	1,158,642	1,475	1,160,117	—	1,160,117
セグメント利益	56,022	56,022	1,247	57,269	—	57,269

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
減価償却費	10,133千円	11,405千円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

(単位: 千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	Buddycom事業	計		
Buddycom利用料売上	475,344	475,344	—	475,344
アクセサリ売上	399,451	399,451	—	399,451
その他	—	—	4,089	4,089
顧客との契約から生じる収益	874,796	874,796	4,089	878,886
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	874,796	874,796	4,089	878,886

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

(単位: 千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	Buddycom事業	計		
Buddycom利用料売上	647,255	647,255	—	647,255
アクセサリ売上	511,387	511,387	—	511,387
その他	—	—	1,475	1,475
顧客との契約から生じる収益	1,158,642	1,158,642	1,475	1,160,117
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,158,642	1,158,642	1,475	1,160,117

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。